

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.172

2016年9月7日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 残そう！コウノトリが舞う地域を

理科教育部会  
臨地研修会

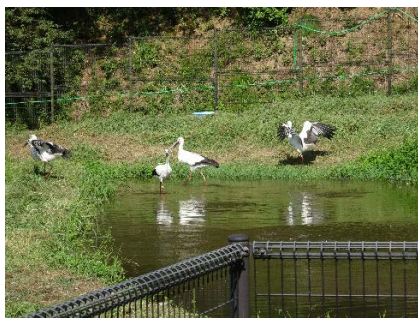
8月、理科教育部会では、「兵庫の理学的リソースについて見知り見聞を広めるとともに、教材化への足がかりとする」ことを目的に、「玄武洞」「コウノトリの郷」で研修をおこないました。

玄武洞では、「玄武洞」「青龍洞」を案内してもらった後、その他の「白虎洞」などを見学しました。「玄武洞」「青龍洞」は、今から160万年前の火山活動で流れ出したマグマが冷えて固まる際に規則正しい割れ目を作り出し、柱状に節理が形成され誕生したもので、その美しさや学術的な重要性から国の天然記念物に指定されています。



玄武洞を有名にしたのは、日本で初めて「地磁気の逆転」が発見された場所だということです（地磁気とは「地球の磁石の方向」のこと）。玄武岩の中に含まれる鉄分が、火山から溶岩として地上に噴出した際に冷えて固まるときに、当時の地磁気に磁化されて残ります（これを「古地磁気」という）。玄武洞の玄武岩の古地磁気、つまり当時の地磁気は、現在の南北とは反対であることが分かったので。見学中には、玄武岩が磁石を引きつけ、磁針が正常に動かない様子も観察しました。

また、玄武洞は、円山川対岸の二見山の噴火から流れ出した溶岩でできています。そのため、円山川の川幅が、玄武洞と二見山の間で極端に狭くなっています。その影響で、かつては玄武洞以南に湿地帯が広がっていたそうです。その湿地帯に生えたコリヤナギを加工して作った「柳行李」が豊岡の鞆産業につながっていったことや、コウノトリが生息できる豊かな自然を作り出したことを実際に感じることができました。



「コウノトリの郷」公園では、研修担当の西川さんよりコウノトリに関するレクチャーを受けた後、実際に、公開ケージ内のコウノトリが餌をとる様子や飛ぶ様子などを観察するという貴重な経験を得ることができました。この研修で、一度日本では絶滅したコウノトリを蘇らせるプロジェクトのすばらしさや大変さを学ばせてもらいました。また一方で、このプロジェクトは、農薬を使わない稲作など地域の人の協力によって支えられていることも学びました。

「コウノトリが住める環境は、人間にとっても素晴らしい環境である」ということを、コウノトリが舞う姿を見て実感することができました。